

## 第4回香南市行政改革推進委員会 会議録

開催日時	令和7年11月27日（木）14時00分～15時45分
開催場所	香南市役所本庁舎7階議員控室
出席委員	小笠原委員、北委員、清藤委員、楠川委員、末延委員、中村委員、濱崎委員、久武委員、吉村委員
事務局	副市長、総務課長、教育次長、企画財政課長、こども課長、総務課、企画財政課、こども課

### 1 開会

#### 副市長挨拶

本市においては、近年の急激な財政状況の悪化を受け、行財政改革の取組に着手したところである。

具体的には、まず、市役所の事業を評価シートに整理し、私と総務課長、企画財政課長、情報政策課長、教育次長の5名で、役割を終えている事業はないか、効果的な取組であるか、近隣市町村の実施状況はどうか、などといった視点で、11月まで各課とヒアリングを行ってきた。

このヒアリングを行う中で、本市は、他市町村と比べ、民間活力の活用が十分でない、また、合併以来見直せていない事業が散見されるといったことが分かってきている。

この後、主なものについて説明させていただき、議論いただきたいと思っているが、委員におかれては、ぜひ、忌憚<sup>きたん</sup>のない意見等をいただければと思う。

今後、市民の皆さんへの説明も行いながら、集中改革プランとしてとりまとめ、計画に沿って、行財政改革の取組をしっかりと進めていかなければと考えている。

### 2 議事

#### (1) 事務事業等の見直しについて

始めに、事務事業評価シート一覧、令和7年度職員数、令和6年度職員人件費、支所の運営等について事務局から説明を行った。

#### 【質疑（意見）】

##### ◆ 委員

職員数のところで、香南市、南国市、香美市の比較があるが、住基人口を支所、保育士、幼稚園教諭、給食センター（調理員）を除いた数字で割った場合、職員一人当たりの市民の数が、香南市が91.5、南国市が120.3、香美市が75.9ということで、南国市と比べても香南市はかなり少ない。この辺はどうか。

◆ 総務課長

様々な見方があるが、一つには、香南市、香美市は合併した新しい市で、南国市は昭和の時代に合併して、ある意味、組織として改革すべき取組が進んでいる中で、成果が出ているのではないかというふうに考えている。

◆ 委員

香南市も合併して20年経つが、この間に職員が減ってない。ここが一番大きいところではないかと思う。

◆ 委員

支所廃止のところ、県下全体で見ると支所があるところは合併をしているところが多く、その中でも香南市は距離的に見ると近いということがあるので、支所を廃止するところは十分理解できる。一方で、市民生活に影響を与えると思うが、市民への意見徴取とかはどんな感じで想定しているのか。例えば、本日、決まった後に聞くのか、あるいは、市の方針としてやっていくということで終わるのかとか、そういったことも含めて、地域の代表の方がいるので、皆さんの意見を聞きながら議論した方がいいのではないか。私は行政の職員なので、職員からすると納得できるが、地域の声というか、直結する方の声の拾い方はどのように考えているのか。

◆ 総務課長

昨日、市議会議員の全員協議会でも委員の質問に近いというか、要するに支所のエリアごとにアンケートを取ったりしないのかというような意見もあった。その際の答弁としては、現時点ではそういったアンケートというようなやり方は考えていない。ただ、推進委員会を開催する中で、それぞれの代表の方もいるので、その意見も聞きながら進めていきたいということで答えたところ。意見をいただく中で、できるだけソフトに取組が進むようなやり方を模索しながら進めていきたいと考えている。

◆ 委員

支所に関しては、この状況を見ると廃止していく方向というのはやむを得ないのかと思うが、やはり、市民生活への影響がどうしても気になる。それで、高齢者がまっさきに思い浮かぶが、例えば障害をもっていて車なども自分で運転できない、移動ができない、そういう場合に電子システムの利用ということも考えているみたいだが、なかなか全員がそれを、しかも一人暮らしをしていて、できない人もいるということも想定すべきだと思う。そういう場合のサポート体制とか、何か社会福祉の方と連携していくことは考えているのか。

◆ 総務課長

現時点において、こういう形でというものは考えていないが、そういった意見をいただく中で、福祉関係部署の意見を取り入れて、できる限り対応したいというふうには考えている。

◆ 委員

具体的にというところはこれからになると思うが、例えば、町内会の運営とかがうまくいっているところは、その町内会のサポートとかもいろいろ考えられると思うので、広い視点で多角的に検討いただければと思う。

◆ 委員

支所の人件費のことが話題になっているが、例えば、決算額の性質別内訳の人件費を見ると、全体が約1億4,200万円で会計年度任用職員を合わせても20名の中で、一名当たりの平均が700万円以上というのはかなり高い人件費になっている。このところが問題になっていると思うが、正規職員と会計年度任用職員のバランス、そういうところでの一定の検討をなされた上なのかというところが、やはりポイントになってくると思う。正規職員で、ある程度年齢が高い職員を配置すると高い人件費になってしまうのは当たり前のことなので、その辺りは気になるところかというふうに思った。

◆ 総務課長

現状、支所については支所長が管理職という形で、一定、法律に基づいた職員配置をしている。その中で、例えば、証明書の発行などの部分については、ある程度若い職員や会計年度任用職員でも対応できると思うが、市民からの相談事などについてはしっかりと話を聞いた上で必要な対応を取ることが求められる。そういうこともあり、支所長と副支所長については、一定、年齢が高い構成になっている。

◆ 委員

支所について、何らかの対策は示されると思っていたが、ここで廃止というところまでいかないといけないのかということを実感したところ。今まで、香南市として合併して、まちづくりということを中心に進めてきたと思うが、その辺を一気に廃止ということを進めていかないといけない財政面もあると思うが、一方で、防災面とかいうことを考えても、人とのつながりということと、まちづくりというものを大切にしていきたい。また、今後の進め方も丁寧な形で進めていただけたらと思う。何らかのメスは入れないといけないということは自分も感じていたが、ここまで、香南市も追い込まれているのかというところが本音のところ。前向きに進めていただきたい。

◆ 委員

支所長や副支所長は、やはり管理職になるので高額の給料が必要ということで、これが廃止の方向で進んでいるが、今は、オンラインとかデジタル化で解決できる部分があると思う。それも本当に、高齢の方にとってもボタン一つ押したら画面の中に出てきて、それで対応してもらえとか、そういったことも簡単に丁寧な対応ができたりすると思う。それが本庁にそういう部署があれば、それで事が足りるとか、これは一例ですが、そういったことで、どこまでデジタル化を進めていけるかということを考えていかないといけないのではないかな。

◆ 委員

支所の廃止は随分、インパクトが強いとか思い切った改革だということで聞いていたが、R6年度支所業務取扱件数一覧表を見たときに、今の説明だと支所全てを廃止の<sup>そじょう</sup>俎上に載せるということだと思うが、支所によっては、相談内容に違いとか個性があるような感じがする。この辺りは同じように支所だからということで廃止するということでもいいのか、縮小するとか、少し不公平になるが、ここは残してみたいなことはないのか。この数字だけ見るとだいぶ違いを感じるの、その辺りはどうなのか。

◆ 総務課長

質問のとおり取扱件数の一覧を見ても、やはり吉川、そして赤岡については他と比較しても少ない。香我美町においては、この中でも一番多いのではないかと見てとれる。先ほどの質問の中で、一つは交通事情もこの間、変わってきているところもあり、高規格道路についても整備された。そういった中においても高齢者や障害者の移動手段についても検討する必要があるのではないかとということで質問もいただいている。それぞれの支所長にも意見を聞く中では、やはり、どこかを残すというよりは、できたら足並みをそろえた方が取り組みやすいのではないかと意見も聞いているが、一方で、様々な意見もいただいているので、全体的な意見を踏まえてしっかりと検討していきたいと考えている。

◆ 委員

吉川は行事にしても支所に頼りきっているのが現状。合併前から今でもそうだが、旧の吉川村のときは、九つの自治会があって、運動会には少なくとも八つは参加していた。合併したときにはせいぜい二つぐらいしか運動会には参加しなかった。去年までは四つの自治会で、今年の一つ増えて五つの自治会が参加してくれたが、どちらかという支所に頼りきったような格好。ほかでは確か7年目を迎えると思うが、しおさい祭りということで、小学生を対象にして、吉川を忘れないようにということでやっているが、これも支所に頼っている。その都度、実行委員会を設置してやっているが、かなりの部分を支所に頼っているの、急に廃止になった場合、かなりの部分が廃れる可能性が出てこないかというのが今の現状。

◆ 委員

皆さんの意見を聞く中で少しとまどいがあるのは、支所廃止のロジックが、人件費が課題だから廃止をするという以外が見えてこないとか、それ以外の理由がなかなか見つからない。もし、これを廃止するならば、そのためにどのような対策をやっていくのかということがある程度ないと、例えば、業務取扱件数の中で多いものについてはどのような形でやっていくというようなことが今、検討がなされているということがあれば、もう少し意見も出しやすいが、これだけではなかなか意見が言いにくい。

◆ 総務課長

まさにそのとおりで感じている。支所長等といろいろ協議をしていく中で、支所として廃止した際のこういった取組が必要ではないかというような意見も多くいただいているので、その部分も含めて、できるだけ市民の方に影響の少ない形とする取組も含めて、次回、提示をさせていただきます。

◆ 委員

今の話をいろいろ聞いていて、数字だけを見て廃止の方向に進めるのはやむを得ないのかというふうに思っていたが、確かに市民への影響というのが非常に大きいところも感じてきたので、最終的には多分、廃止していくにならざるを得ないと思うが、例えば、一度、閉鎖しても、週に1回は出向のような形で誰か担当が一人だけでも行って、返事とか対応は遅くなるかもしれないが相談を受けるとか、デジタルシステムとかもなかなかすぐには整わないと思うので移行期間を設けるとか、それから本当に思ったのは、障害のある方といっても身体だけではなくて知的な面とか、認定されていないけど実はという方もいる。そういう方が電話をかけることができないとか、そういった方に対してのサポートが必要だと思った。そういう方でも支所に行ったら何とかしてくれるという安心感がおそらくあったと思うが、それが完全に廃れてしまうと孤立してしまうおそれもあるので、ぜひその辺りまで膨らませながら、移行期間が設けられるのであれば検討いただきたい。

◆ 委員

委員が言われるように、どこかで切っていくということを考えていくのが、ここの場ならば仕方がないことかと思っていたが、これから先のことを協議できるのであれば、廃止は廃止でも少し期間を置くとか、それから、例えば、管理職と副と若手の3人が絶対の人数で、でもその人数を減らすとか、午前中だけの業務とか、やはり、その辺りを少し考えていただきたい。それと、業務取扱件数ですが、この数が示していることが支所を頼りに住民が生きていくというあかしでもあるので、それが、実際に廃止というときに、行き場を作ったとしてもそこでという意識はどうしても残る。そうなったときに、単なる行政不信だけではないが、やはり小さいまちでも、そこで孤立する住民も出てくるのではないかという思いもあるので、ぜひその検討はしていただきたいと、切に思う。

◆ 委員

例えば、今、議題になっている支所の廃止については、どれくらいの期間でどういうスケジュールでやっていくのか。全体のスケジュールはあるが、それぞれの課題については、個別でスケジュールがあって、おおむねどれくらいでやっていくというような予定があれば教えていただきたい。

◆ 総務課長

支所の取組については、先ほどの説明において、市民に理解を求める上で必要と思われる期間、それと、デジタル化の取組、移動手段をもたない高齢者の対応方法などの準備期間を踏まえて、可能であれば令和 10 年度中の廃止というところを現時点においては見込んでいる。令和 8、9 年の 2 年間の準備期間において、遅くとも令和 10 年度中にはというふうに考えている。

次に、保育所、幼稚園、認定こども園の運営について事務局から説明を行った。

【質疑（意見）】

◆ 委員

資料 1 の 1 枚目の一番下のところの保育所・幼稚園・認定こども園運營業務、その上の放課後児童クラブ推進事業もそうだが、所属評価とヒア部評価で A 評価と C 評価のかい離があるが、どういった評価の違いがあったのか、差し支えない範囲で教えていただきたい。

◆ 総務課長

担当課としては、公設公営で引き続き香南市の保育を実施していきたいという形で A 評価としている。一方、ヒアリング部会の評価としては、近隣の香美市や南国市を見ても公営の保育所の施設数が少ない。結果として、香南市は職員数も多くなり、人件費も掛かっている状況にあることから C 評価とした。

◆ 委員

南国市の場合、民間の保育所、幼稚園が結構あるが、民間が少ない香南市はどうしても公立が多くなってしまう。南国市と比較しても、果たしてそれで、保育における市としての責任というものが比較できるのかということに疑問に思った。それと職員数は会計年度任用職員を見ると 257 人だが、多分、保育所とかが多いと思う。決して全員がフルタイムではないので、だから、本当に必要なところにしっかり割り当てられているのか、割り当てた上で、現在運営しているということであれば、この数だけでなかなか判断できないところもある。とはいえ、確かに金額を見れば解決していかねばならないところがあるので、認定こども園化とか、当然、高台移転ということは特に赤岡、吉川は、夜須が移転したように絶対避けられないと思う。個人的には伝統もあるので残したい気持ちも当然あるが、子どもの命を守るということを考えると、赤岡、吉川を再編して高台移転ということが視野に入るので、数だけの判断ではなく、本当に必要な保育としてこれが必要で、でも、その中で認定こども園化を含めて、また、検討していただければと思う。

◆ 委員

私立と公立の違いで運営経費は分かったが、他に何かあるのか。例えば、保護者の安心感が違うとか、料金が違うとか。

#### ◆ こども課長

保育料については、公立も民間も同じで、違う部分は、民間は延長保育をした場合の追加料金が発生するとか、取り組む内容について、それに必要な経費を別途徴収するというような、金額面で見るとそういったことがある。保育の内容については、国が定めている保育指針や幼稚園教育要領に基づいて民間も公立も保育をしているので、大きな違いはないと考えている。

#### ◆ 委員

赤岡保育所は、昨年の津波騒動で80数名いた子どもたちが、今年度は半分の約40名になった。市が認定こども園として東こども園を設置して、子どもの命を守るという観点でというところもあり、住民、保護者の不安もあったので、80数名いた子どもたちが分散という形で地元に戻ったり、町外の保育所に行ったりした。しかし、地元にいる者としては、地元にあるものは残してもらいたい。残すためには高台がないと、と言われている赤岡、吉川だが高台はある。その中で、例えば、小学校で保小の一環でできないかとか、城山高校がその都度、高校の編成のときに名前が必ず挙がるが、他の高校が統合や廃止になっても、城山高校がなぜかあの少ない人数で存続しているのは、それなりに、あの高校が打って出る色々なことをしている結果だと思っている。しかし、その地元にある高校とも連携ができていない。教職員と子どもたちでは、赤岡中学校地区といて、中学校地区の単位もある。それを使わない手はなくて、城山には多分、空き教室が北舎なら北舎丸ごと余っている教室がある。なぜ、子どもの命が守れないのかというのなら、そこで、子ども同士の連携を保育から高校までやっているの、ぜひ、県内で初めての保小中高ではないけど、それが、本当に子どもの命を地元で守るといふなら、そこまで考える方向性を市は持っていただきたいということも昨年、保護者として言ってきた。このことに関したら、一緒に考えてもらえないかということがとても強い。

それで、次、香南市の保育所、幼稚園は合併した当時、県の直轄と仲間内に言われていた。香南市がありとあらゆる県の制度であるとか色々なものを取り入れて、本当に職員が忙しい思いをしたが、やらないといけないことは十分やってきたと思う。しかし、その頃の10年、20年前には、パートが職員の数を上回ったらすぐに破綻すると言われた。中身的にいうと、もう少し人数も減らすことももちろん考えていく。そこには、今、量のことを言っているが、質を落とすわけにはいけない。それは、公設公営でやってもらいたいから、あくまでもそこは譲らない。だけど、中身的にはこの人数でいいのか、この仕事内容でいいのか、そこをしっかりと精査して減らすところは減らす、自分たちで見るところは自分たちで見ると、そういう方法も考えていかないといけないのではないと思う。

#### ◆ 委員

保育所の問題で、先ほど、委員からも具体的に体験を踏まえた話があったが、香南市の教育を考えると一番基礎になるところが保育所等の教育になる。その教育レベルが高ければ、小中学校までそれがそのまま影響するというふうに考える。職員数の問題は精査しないといけないという話はあったが、統合も含めて様々な見地から、でも、働く職員の給料につ

いては、やはり上げていく必要があるのではないかというふうに思っており、教育レベルを上げるために必要な費用は十分確保していただきたい。それが、香南市の未来につながる投資だというふうに考えている。それと、市長の選挙公約にも子どもを中心ということがありました。これは本当に香南市の将来も含めたすごく大事な根っこの部分だと思うので、ここは慎重に専門家の意見も十分に聞いてやっていただきたい。

◆ 委員

いろいろな数字を出していただいているが、最終的にどうしたいのか、その効果がどうなのかというのが見えないので、なんか議論しづらくて、支所であれば百かゼロだったので、ゼロになれば先ほどの1億5,000万円ぐらいが削減できるという数字は見たが、今回は、保育所等の数は変えずに認定こども園に移しながら、将来的には民間に移す形だと思うが、そうしたときに、それによって経費がこうなっていくとか、先ほど委員が言われたように、例えば、そうしなくても、削れる部分があって、職員をこれだけ減らせばこれだけの経費が削減できるという数字がないと、どれがいいのかということがなかなか判断できない。それと、数は変えないと説明があったが、例えば、高台移転されるのであれば、県内のいろいろな市町村では、三つぐらいの保育所を統合した上で、新しい保育所を高台に作るということもやられているので、そういったこともあるのではないかと、数を減らして良い機能で高台に移すということもあると思う。園児も少ないよりは、多い方が楽しいということもあると思うので、そこも含めて、情報を見せていただけた方が、こちらとしても検討しやすい。

先ほどの支所に戻るが、支所も百かゼロになっているが、例えば、管理職のところを兼務に変えるとか、開庁時間を変えるとかということで、多分、人件費も半分ぐらいに削減しようと思ったら、やり方によってはできると思う。そういうところも見せてもらった上での議論だと思う。

ちなみに、委員会では、最終的に委員会で判断した後に、市役所がそれを実行する形になると思うが、それでいけば、委員会として今の段階で先ほどの支所を百かゼロにするとか、保育所等をどうするのかということは、今の情報だけで結論は正直出しづらいため、時間が、今後どれだけあるか分からないが、次回にそういうところを見せていただかないと、我々としても議論が深まらないと思う。

◆ 委員

経費等の負担があることはすごく理解できる。それで、この保育所に関して、例えば、数を減らさないが質は確保する、何々を改善する、圧縮するというようなポイントを示していただきたいということと、やはり、香南市は子育て支援に非常に力を入れているという外向けのブランドイメージがあるが、ブランドイメージを毀損するようなことになるのは、非常にもったいないというか、失敗したということに成りかねないところなので、意見として慎重にならざるを得ないところもある。先ほどの支所のことも含めて、やはり、ブランドイメージを傷つけないことでの、しっかりした丁寧な対策というものを示していただくということが、この議論の上でもすごく大事になると思う。

◆ 委員

保育所等の再編に関しては、おそらく別の会で話合いがされているのではないかと思う。例として、赤岡と吉川の話をしたが、あくまでもたとえ話であって、おそらく再編の方の会で具体案というのは出てくると思う。大体の方向性が見えたときにそれに沿って考えるか、あるいはその会にこちらから発信してくのか、その辺りは段階的にというものがどうなるのかということが話を聞きながら混乱してきたので、今でなくても構わないが、この会が終わった後に整理していただければと思う。一番大事なことは、子どもの命を守ること、そして保育の質を保障する、そこは絶対だと思うので、その上で、認定こども園化も含めて、それが経費削減につながっていくなら、ぜひそれは進めていただきたい。

◆ 総務課長

保育施設は、学校等規模適正化の検討の中で進めるという部分もある。そこでの議論が進む中において見えてくると思っている。それと、資料5ページの本市の教育・保育施設の状況及び近隣自治体の比較の上の表で、説明が不足していたが、ここの香南市の利用人数は確保していく必要があるという判断はしている。先ほど、香我美幼稚園と香我美おれんじ保育所の認定こども園化の説明もしたが、ここの利用人数を一定確保した中でできる対策というふうに考えている。

次に、児童クラブの運営について事務局から説明を行った。

【質疑（意見）】

◆ 委員

来年から夜須が公営になるということだが、何か理由というか、どういう経緯があったのか。

◆ こども課長

夜須は一と児童クラブについては、香南市になる前から保護者会での運営を続けている児童クラブになる。近年、常勤で働いていただける支援員が募集をかけてもなかなか集まらない、雇用しても定着しないということがある。それと、保護者運営なので、子どもと支援員のトラブルであるとか、近所の方との関係性であるとか、様々な問題に対して保護者会の役員が対応しなければならないなどがあり、役員を担う方がいなくなったということも含めて、数年間にわたり保護者会が協議をした結果、臨時保護者会を開き、その中で、こういう方向に戻したいということが決まった。

◆ 総務課長

これまでの検討と同じようなことになるが、後段に書いているとおり支援員の配置基準を、例えば見直すことによって、どのぐらい効果がでるのかとか、保護者負担金の見直しを行うことによって、どれぐらいの効果がでるのかというものについて、次回、資料を準備して、それも踏まえて、また議論いただきたいと考えている。

次に、給食センターの運営について事務局から説明を行った。

【質疑（意見）】

◆ 委員

給食センターは、市の所管施設があるということで、今回、委託するときには、その施設を貸して民間の方に運営してもらうのか。

◆ 総務課長

今、考えているのは、給食調理の業務と配送、回収の部分。資料 15 ページに載せているが、他自治体においては調理、配送と回収、それと併せて洗浄と清掃について委託しているが、そこも委託するという点についても、一定視野に入れている。

◆ 委員

給食センターは新しいのか。

◆ 総務課長

合併後に建てたもの。

◆ 委員

子どもが食べるものなので、一番大事なところは質を落とさないということで、そこが担保できれば、ここについては民間であろうと直営であろうとそこまで揉めないのかと正直思う。ただ、例えば、南国市や香美市では民間に委託しているが、こういう満足度を取っていて、こういうことになっているので、同じように質は確保できるという言い方ができれば、先ほどのよりは、まだハレーションが少ないと思うので、そういう資料もあれば、説明しやすいのかと思っている。

◆ 委員

調理、配送、洗浄等を民間委託して、維持管理等は市で直営ということで、コスト的にはどれぐらい安くなるのか。

◆ 総務課長

委託をする際の給与水準によると思うが、例えば、現在の給料で現給保障をもって委託するとすれば、今の給料とそんなに変わらないのではないかと考えている。ただ、人件費としては削減できるので、人件費か、人件費ではないのかという部分でいうと随分変わってくる。

◆ 委員

委託費の中に人件費があるが、あまりコストダウンにならないのではないかと。安くならないならやらない方がましではないか。

◆ 総務課長

現状、正規職員と会計年度任用職員で給食センター調理業務を運営しており、仮に委託するとなれば、正規職員は保育調理へ回っていただく。それでいくと、正規職員の給与水準と会計年度任用職員の給与水準については、正規職員の方が高いので、委託するとすればその部分はしっかり抑えることができると思っている。

◆ 委員

賃金は民間の方が高い。それを考えると逆に安くなるのかと心配になった。これからいろいろ検討していかないといけない。

◆ 委員

給食センターは、どのような素材を使って子どもたちに美味しく、栄養価や安全等を担保して提供できるかというところが一番大事な部分だと思うので、あまりこの委託は考えられないと個人的には思っている。市長の施策では、特別栽培米を子どもたちに提供している。さらに、香南市は野菜とかもいろいろ作っているので、そういったものも、例えば、減農薬とかにして、安全な物を今後提供していくという方向性があるなら、ここを民間に委託するというのは難しいというか、食の質がやはり落ちる危険性というか、味もそうだが、いい素材を使えば美味しいものもできるので、委託はないという感想で、ここは大事にしてほしい。

◆ 副市長

業務委託をしようとしているのは、あくまでも調理や配送の部分とかなので、いわゆるメニューを作るとか、どういうふうな野菜を使うのかということは今と変わらない。メニューに基づいて実際に調理する部分、あるいは、学校に届ける部分について、民間でできる部分は民間にお願いしたいと考えている。

◆ 委員

市の方向性は、やっていることはもちろんそのまま、いかに人件費を抑えるかということか。

◆ 委員

例えば、今の給食センターを丸々どこかに委託するということではないということで、繰り返すが、それであれば、山北のみかんが今日はでるとか。コストも抑えられるということか。

◆ 総務課長

当然に抑えていかないといけない。

◆ 委員

給食センターの評価シートを見ると、所属の評価がCになっているが、例えば、指定管理ののいち駅とかは利用が少なければ所属の方もある程度厳しく評価するということはあるが、この地元の食材も使いながら工夫しながらやっているし、別にニーズが減るということではなくて、対象者に対してしっかり取り組む中でCをつけているところの課題は。

◆ 総務課長

先ほど正規職員と会計年度任用職員で運営をしているという説明をさせていただいたが、所属としては、しっかりとした体制で運営すべきではないかというような意見をもって評価が下がっている。

(補足説明)

事務事業評価シートにおいて、正規職員については、仮に退職者がでてからの新規採用では、育成期間中は他の職員に負担がかかるため、安定的な体制にならない可能性があること、また、職階がなく調理現場に明確な責任者がいないため、職務職階を反映すべきであるなどとして、「事業実施の手法の妥当性」や「コスト削減の可能性」の項目において、「検討の余地がある」と評価したことから「C」評価となっている。

◆ 委員

要は体制が、今整っていないということでのCということか。

◆ 総務課長

そのとおり。

◆ 委員

そうすると、委託によってその体制が改善されるということで受けとめてよろしいか。

◆ 総務課長

そういう方向でというふうに考えている。

◆ 委員

先ほどの質問に関連して確認だが、要するに、この委託をした場合、献立や発注等は市の方で行って、調理などの作業を委託業者が担当するということで、その際に、当然に市の方に管理栄養士がいて、打合せ等も定期的にながらという体制は維持するということは今までどおりということか。

◆ 総務課長

そのとおり。

◆ 委員

やはり現状は、どういう業務をやっている、ここは変わらないが、ここは委託する。ここの経費が委託することによって、これだけ削減できるという形で、でも、質は変わらないみたいなものを見せていただくと委員としても判断しやすいので、そこも示していただきたい。

◆ 委員

先ほどの所属評価の説明内容がイメージと違ったので、どういうことなのかという質問で、冒頭で説明のあったA, B, C, D評価の基準は、事業実施の必要性、有効性、効率性、公平性で20点満点ということだったので、これでC評価ということは事業縮小・再構築を検討することになるが、通常C評価というのかなり良くない評価というか、縮小した方がいいというイメージを受け取ったが、再構築の場合もあるという理解なのか。所属の評価の仕方とヒアリング部会の評価の仕方が違う基準でやっているということはないのか。

◆ 総務課長

所属の評価として、現状、賄材料費を十分に給食代として転嫁できていないという認識があり、そういった中において、給食費の見直しも含め、取り組むことによって、収支のバランスをとる必要があるのではないかというような評価もしている。そういった部分も含めてC評価になっている。

◆ 委員

所属自らが給食費も上げたらいいと思っているということか。

◆ 総務課長

価格転嫁というか、その見直しができている部分もあって、そういった見直しも必要ではないのかというのが所属の意見。

◆ 委員

業務自体の評価ではなくて、多分、業務上の評価はできていると思っているが、それに対して予算をつけてほしいという意味でのC評価になっているのではないか。

◆ 会長

支所、保育所、幼稚園、認定こども園、児童クラブ、給食センターの運営については、職員数や人件費の観点からすると厳しい状況にあるようだが、早急に結論を出すのはどうかという意見が多かったように感じる。また、保育所等については、質を確保しつつ、財政的にどういうふうに工夫すればどのぐらい削減できるかという資料もあればということなので、もう少し時間をかけて、引き続き審議を続けるということによろしいか。

## (2) その他について

次に、次期（第3次）香南市行政改革大綱策定等スケジュール（案）について事務局から説明を行った。

### ◆ 委員

最終、今でてきているB評価であるとかC評価をどういうふうにしていくのか、今後のスケジュールがないが、それは委員には示せないのか。

### ◆ 総務課長

順次、示していく。

### ◆ 委員

ゴールを設定して、いつまでにこれをこうしていかないといけない、住民説明は、ここまでにしなないといけないということが決まると思うが、そのゴールが示されていないので、これが延びれば延びるほど財政に影響してくると思う。その辺のゴールを示していただいて、検討していくし、早くやらないといけないものは、本当に早くやっていただくという形で、どれがどれくらいのゴールなのかというものを示していただきたい。

### ◆ 総務課長

資料は分かりやすく、委員の皆さんが意見を出しやすいような形の資料を準備して、順次進めていただきたいと思う。

閉会